

足羽川河川激甚災害対策特別緊急事業

受賞機関 福井県足羽川激特対策工事事務所

はじめに

平成16年(2004年)7月18日、福井県嶺北(れいほく)地方の九頭竜川水系足羽川(あすわがわ)流域は、梅雨前線により明け方から昼前にかけて激しい豪雨に見舞われた。降雨は、最大時間雨量で87mm、6時間雨量で228.9mmを観測し「平成16年7月福井豪雨」と命名された。

当時の福井市の浸水被害は甚大で、床上浸水2,514世帯、床下浸水8,673世帯に及んだ。

福井県では、再度、同様な災害が起きないように足羽川河川激甚災害対策特別緊急事業を実施した。



福井豪雨

事業の概要・成果

【事業区間】日野川合流点から上流約6km

【計画高水流量】1,800 m³/s

【工事の内容】

河床掘削…足羽川は市街地を流れる河川で河道幅が困難なことから、河床を平均約2m掘削し流下能力を確保した。

低水護岸…低水路の側方侵食防止のため実施した。

堤防強化…堤防点検で対策が必要な区間を調査し実施した。

破堤部復旧…良質な土砂で堤防を復旧した。

橋梁架替…河床掘削に伴い基礎が不安定となる3橋の架替を行った。

【事業にあたっての配慮事項】

本事業により河川環境を変える恐れがあることから堤防上の桜の保全の他に生態系や景観等に対して様々な配慮をした。以下に代表例を記す。

- ・覆土護岸：高水護岸においては従来の自然な景観を復元するため、コンクリートブロック上に覆土する護岸タイプを主に使用した。覆土材料は現地で発生した表土を利用し、従来の生態系の保全を図った。
- ・ワンド：本事業では従前の河道線形を利用してワンドを整備し、根固工に木工沈床を採用した。
- ・土砂運搬：本事業では河床掘削で発生した約83万m³の土砂を事業期間内に処理する必要があった。事業区間は市街地であることから土砂搬出路を分散する等の渋滞対策に配慮した。また発生土砂の民間公募も行い、近距離にある畑や宅地造成にも土砂を供給しコスト削減を図った。



ワンド

おわりに

災害に強い安全な川であるとともに住民の憩いの空間に復旧した足羽川が、福井市のシンボルとして将来に渡り多くの方に長く愛されることを期待する。



事業後の足羽川

事業名 あすわがわ 足羽川河川激甚災害対策特別緊急事業
受賞機関 福井県足羽川激特対策工事事務所
実施期間 平成16年10月13日～平成22年3月31日



足羽川の自然を守るための取組み

〔事業概要と評価〕

事業を実施する際に、コンクリートが露出しない覆土護岸の採用や、ミティゲーション策としてのワンドの設置等、各種の環境保全策を講じた。また、土砂の運搬先を、一部は民間公募によって畑や宅地造成へも土砂を供給する等の対応を講じてコスト縮減を図った。環境保全とコスト縮減に関して以上のような創意工夫をこらした点は他の参考となるものであり大いに評価できる。

賛助会員：(株)安部日鋼工業福井営業所、木原建設(株)、(株)建設技術研究所福井事務所、五洋建設(株)福井営業所、坂川建設(株)、(株)サンワコン、(株)東京建設コンサルタント関西支店、戸田建設(株)福井営業所、飛鳥建設(株)北陸支店、(株)本間組福井営業所、前田建設工業(株)福井営業所